

チボリ・ジャパン社の平成19年度見通し等について

1 平成19年度見通し

業務の見直し等により経費を約5億円削減するものの、入園者数の減少（前年度比6万人減の76万人）及び入園料の値下げなどによる消費単価の低下により、売上が20億50百万円と約5億円減少することなどから、当期損益は△658百万円と大変厳しい見通しとなっている。

単位：百万円

区 分	19年度見通し (A)	18年度実績 (B)	増 減 (A - B)
入園者数(万人)	76	82	△6
消費単価(円)	2,700	3,140	△440
営業収益(a)	2,050	2,554	△504
営業費用(b)	2,730	3,302	△572
営業損益(a-b)	△680	△748	68
営業外収益	34	192	△158
営業外費用	8	1	7
特別利益	0	525	△525
特別損失	0	2,407	△2,407
当期損益	△658	△2,443	1,785
累積損益	△14,453	△13,795	△658

(参考) 19年4月～10月の入園者数：485,462人（前年同期比△9.3%）

2 経費削減計画（平成19年度～平成20年度）

業務委託や職員数・組織、開園時間の見直し、不採算店舗等の休廃止など、更なる経費削減に取り組み、18年度に比べ、平成19年度は約5億円、20年度は約4.8億円の合わせて約9.8億円削減するとともに、積極的な営業活動等を展開することにより、平成20年度には収支バランスがとれる経営を目指すこととしている。

<見直し内容>

- (1) 業務委託の見直し（整理合理化） △ 91百万円
アトラクション管理・清掃・監視センター管理・倉庫管理業務の見直し
- (2) 職員数、組織の見直し △184百万円
管理部門の業務統合、開園時間の見直し等による人件費削減等
- (3) 広告・宣伝業務の見直し △ 75百万円
- (4) その他の業務見直し
・植栽事業の見直し △ 74百万円
・不採算店舗等の休廃止
・エンターテイメントの見直し △137百万円
・修繕費の見直し △278百万円
- (5) 省エネ等の徹底 △ 26百万円
- (6) その他の経費削減 △117百万円

3 その他

チボリ・ジャパン社としては、来年1月に公園の新しい名称を公募し、同年3月に決定したい意向である。

倉敷市との市民公園化に関する協議の状況について

1 これまでの協議の状況

- ・回数 7回（10月23日～11月13日）
- ・内容 協議の進め方、市民公園の性格・機能、市民公園のエリアなど

2 市民公園化のパターン

倉敷市は、次のとおり、全体を市民公園とするパターンのほか、一部を市民公園とする複数のパターンについて、市民公園化した場合の公園の性格や機能、市の負担等について検討を行っている。

- (1) 現在のチボリ公園全体を市民公園化
- (2) 緑と花と水辺の部分を中心として、一部を市民公園化

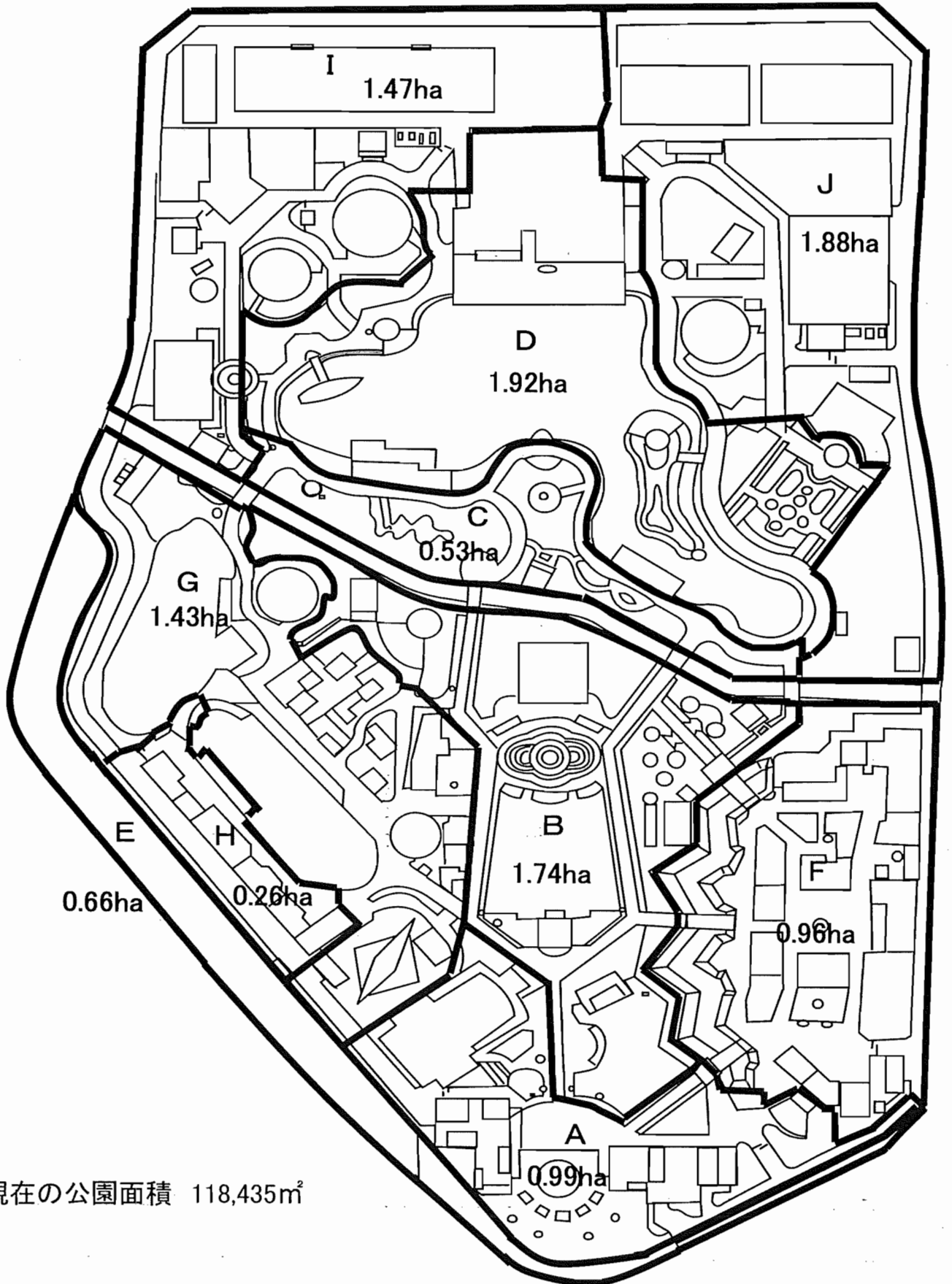
<別紙図面参照>

公園全体をA～Jの10ゾーンに分け、その組み合わせにより、市民公園のエリアを複数検討

3 今後の予定

11月19日（月）に開催される、市議会代表者会議で協議される予定である。

ゾーン図



現在の公園面積 118,435m²